

夏目漱石作『虞美人草』に表れた日本

甲野家の後妻(藤尾の母)=半過去

帝国主義時代の旧体制日本

帝国主義崩壊中の財閥の実態

宗近家の長男(宗近一)=近未来

西洋化途上の新体制日本

世界に向かう日本人の実態

甲野欽吾と宗近糸子=普遍

人間の基底を支えるべき精神

甲野藤尾=流動

文明開化国家戦略反映モデル

甲野 欽吾 (考えても行動しない男)

宗近 一 (考える前に行動する男)

甲野 藤尾 (西洋型日本女性の不遜)

宗近 糸子 (東洋型日本女性の謙遜)

小野 清三 (文明開化型未来獲得法)

井上 孤堂 (置き去りにされた美点)

井上小夜子 (忘れ去られる滅私精神)

旧社会と新社会の狭間にいた漱石は、当時の社会を反映するこんな人物たちを描いて、日本の近代化がどのようにバランスをとって進むべきかを物語る。

Junko Higasa 2013.9.1